

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部		
	課名	健康増進センター		
	係名	健康増進係		
	記入者		電話(内線)	32-7890

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	救急医療・市民の集いイベント事業		(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体		
① 事業の区分	主要事業			市		
② 施策コード	11301	(総合計画掲載 ^ハ -ゾ ^ニ)	47			
基本目標(政策)	1 ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)					
基本施策	1 健康で安心して暮らせる保健福祉の充実(健康・医療)					
施策	地域医療体制の充実					
施策内容	救急医療体制の整備					
(5) 事業期間	開始	15 年	4 月から	(8) 事務分類		
	終了	年	月まで (力年)	根拠法令	消防法 医療法	
(7) 予算・ 財源等 の種別				事業の性質	一般事業費(ソフト事業)	
				会計区分	一般会計	
				財源区分	市単独	
				予算科目	款 4	項 1 目 2
				予算書上の 事業名称	救急の日・市民のつどい事業費 (予算書 99 ^ハ -ゾ ^ニ に掲載)	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	一般市民	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)	市民が、救急医療及び救急搬送について正しく理解し、救急と防災に関する意識の普及啓発を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	救急の日(9月9日)前後に、救急医療並びに救急蘇生法について学ぶ「救急の日・市民の集いイベント」を開催する。 【イベント内容】 第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法(AED取扱い含)の実技	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	1982年に厚生省が、救急業務や救急医療について市民の理解と認識を深め、救急医療関係者の士気を高める日として「救急の日」を制定した。国では、厚生労働省、消防庁、日本救急医学会、財団法人日本救急医療財団の共催により、救急の日のイベントを実施している。茨城県内では、市、医師会、消防署共催で同イベントを開催している市町村は
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	東日本大震災の影響もあり、平成23年度からの参加者は、250人~350人の市民が参加しておりニーズは高い。 また、市内AEDの設置力所は、年々増加しており、現在146力所設置されていることから、本イベント開催の意義は大きい。		

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
	26 年度	27 年度	28 年度 29 年度 30 年度
事業費	事業内容		
(1) 事務事業費の コスト	需用費	99	106
	役務費	7	7
	使用料及び賃借料	32	35
	合計	138	148
財源	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)		
	地方債 (千円)		
	その他特定財源 (千円)		
	一般財源 (千円)	138	148
	合計 (千円)	138	148
	補助・起債制度名		

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	イベント開催数	目標値			1	1	1	1	
		実績(見込)値		1	1				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	イベント参加者数	目標値		260	270	290	300		
		実績(見込)値	248	250	260	280	300		
		達成率	82.7%	83.3%					
	AED設置数	目標値		110	120	130	140		
		実績(見込)値	91	100	105	110	120		
		達成率	65.0%	71.4%					
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
平成25年度より、救急蘇生法の実技を再開し、さらに、成人の心肺蘇生法の実技内容を充実させた。参加者からは、「実際にやることで理解が深まる、継続してほしい」との要望が多かった。参加者1人ひとりの実技時間を確保することが今後の課題である。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	救急蘇生法や防災意識の啓発のためには、欠かせない事業である。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	結城市、結城市医師会、結城消防署等関係機関での共催は理想的である。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	イベント実施については妥当であるが、実技方法等は検討の余地がある。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	消防署と健康増進センターとの役割を明確して連携する必要がある。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	AEDを設置している事業所等に開催案内を送付しているが、イベント開催について、さらに幅広く市民へ周知する必要がある。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	救急医療や防災に関する意識は高まっている。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	救急の日・市民の集いイベントは、市民に定着しつつある。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
本イベントは、救急医療及び救急蘇生法について学ぶ機会となるため開催の意義は大きく、市民からの期待も高い。毎年、参加者が250人前後であるため、救急蘇生法の実技等を工夫する必要がある。さらに、参加者の層も固定傾向にあるため、多くの方が参加できるよう開催についてPRする必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
救急の日・市民の集いイベントに関しては、国・県でも実施している事業であるため、結城市でも継続すべき事業である。イベント内容に関して、救急医療や救急蘇生法のみにとどまらず、市民の身近な内容(救急車の利用法や応急手当)も盛り込み、イベント内容を発展させていく必要がある。また、内容を充実させることにより、一般参加者の増加を見込んでいく。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価	記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価	担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)			引き続き関係機関との連携を図りながら、市民のニーズに即したイベント内容で開催する。				
(3) 最終評価	企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				